

	<p>Never Give Up Act on my own Change myself Knowledge is money</p>	<p>Neo 名寄高校2期生(通算79期生) 27号(進路特別号) 令和7年1月27日 進路担当:佐川 大樹</p>
---	---	--

## ☆共通テスト基礎知識③

### ⑦ 地歴公民, 理科の2科目受験について

地歴公民と理科の試験時間ですが, 2科目受験の試験時間が130分, 単純に1科目の試験時間60分の2倍にはなっていません。これは途中で答案を回収するために10分間設けられている, この間は参考書などを見たり退室してトイレに行ったりすることはできません。

また, どの科目から解答するかも大事になってきます。2科目受験をする人はどの科目をどういう順番でやっても構いませんが, 最初に受験した科目は「第1解答科目」と呼ばれ, 大学によってはこの第1解答科目の点数を合否に採用するというところがあります。この場合, たとえ第2解答科目の方が点数がよくても第1解答科目の点数が合否に用いられます。大学によっては2科目のうち高得点の方を採用するというところや, 特定の科目を第1解答科目に指定する大学もあります。

### ⑧ 数学について

今年からの変更点は, 数学②の時間が今年から60分から70分に解答時間が増えたことです。また, 今までは数学②は「数学Ⅱ」かまたは「数学ⅡB」だったのですが, 単元の移行により「数学ⅡB」が「数学ⅡBC」に変わっている点にも注意です。そして数学②は「数学ⅡBC」で受けるように指定する大学が多いことから, 数学②を受験する生徒は, 3年生の科目選択で数学Cを選ぶ必要があります。

### ⑨ 情報について

今年から「情報Ⅰ」も共通テストの試験科目に含まれ, 主要な国公立大を受験する場合は5教科7科目900点満点から6教科8科目1000点満点となります。ただし, 国公立大学の傾斜配点は, 素点の100点のままか, それより低く設定しているところが多いです。また, 共通テスト全体に占める「情報Ⅰ」の配点比率は5~10%程度のところが多いです。導入初年度ということもあり, 例えば北大は受験を義務付けているものの配点は0です。ただし北大に関しては令和8年度入試は前期日程で, 315点満点のうち情報Ⅰは15点の配点を予定しています。今後, 情報Ⅰの配点については見直しをする大学が多いものと思われます。

## ⑩ その他の注意点

共通テストでは、毎年必ず受験生側の勘違いでトラブルが起きているという話を聞きます。その大きな原因の一つは、受験科目数に関するものです。

例えば、地歴公民や理科を何科目受験するかは、志願票に科目数を登録するときに、つまり初めに何科目受験するか申し込んだときに決まります。**登録内容が確定したあとの変更は一切できません。**よくあるケースとして、2科目で登録したけど志望校が変わって1科目で大丈夫になって、1科目だけ受けようと勝手な判断で変更する人がいます。それで1科目受験の開始時刻(10:40)に間に合うように行こうとしても、遅刻者の入室限度時刻(9:50)を超えてしまうので、**本来受けようと思っていた科目も受験できないことになります。**この手のトラブルを避けるには、**たとえ0点でもいいから受験可能な科目を全部受験すること**です。

なお、数学については、志願票には数学を受けるか受けないかを記入するだけなので、1科目を受けるか、2科目を受けるかは試験当日に決めても構いません。仮に受験科目に数学①しか必要ないとしても、**たとえ0点でもいいから数学②も受験するのがお勧め**です。思わぬ可能性が広がることがあります。

## ⑪ 問題の特徴

基本的に共通テストの問題は、センター試験の内容を踏まえたものとされています。しかし、これまでの入試では「知識・技能」を評価する問題がほとんどでしたが、何度も言うように「**思考力・判断力・表現力**」を測る問題が重視されます。例えば、

- (1) 複数の資料をデータをもとに考察させる問題
- (2) 日常生活の中から課題を発見して解決方法を構築する問題
- (3) 最初の答えが次の答えの根拠になる問題(最初の答えによっては、次の問題の答えが変わるので、答えが1つに定まらないこともある)、
- (4) 会話や討論、新聞記事を題材にした問題

こうした問題が出題されるということは、説明文や会話文などが織り交ぜられるため、**必然的に問題文が長くなります。**英語のリスニングでも同様に文章量が増え、**英文が読まれる回数が1回だけ**という問題も入ってきます(センター試験のときはすべて2回読まれた)。内容としては、教科書レベルの語彙力で対応できる表現が多く、日常生活や学生生活などを受験生がイメージしやすい場面を中心に出题されます。ただし、アメリカ英語だけでなくイギリス英語も登場するので、多様な音声に触れておく必要があります。